

暴坊魔將軍



成年向け



若干デニョンが上がりすぎたのか全
体的に絵を大きく描きすぎちゃったみた
いなので、今回は文章ちゃんと少な目で。ま
あんま時間もないしね。というわけで、
「悪魔の坊主將軍」
はじまるわよ!!

■アスタロット(挨拶)!! はじめましてのち
は、はじめまして。そうと無い奴等オ、スリゲル鬼神
です。今回の本は、先日遂に念願の完成塗装
済みフィギュアが発売され、デニョン上がり、
アスタロット嬢。
とは言ったものの





■ほぼ毎回、こういうお尻をメインにした
アングルの絵を1枚は描いている気がし
なくもない。しかもほぼ同じ構図で、まっ
放っておけばおっぱいしか描かない様な奴
なのだ。何かしらの変化を望んだの事なのは
あるのだが、や
ぱり経験値の足
りなさが露呈する。
にも関わらずこうして
同じ様な構図を描いてし
まうのは何故なのか、
少し考えてみた。

多分俺はこの構図が好きなんだと
思う。ただ、それはお尻云々といった事
とはあまり関係なく、単に「背後からのア
ングルで胸の横からはみ出して見えちゃうくらい
ぞかいおっぱいが大好きで仕方が無い」といった
想いの一点突破的なものなのかもしれないな、という
結論に辿り着いたことに気付いてしまい、何とも微妙
な気分になった様な気がしたが、まっいいや。気付か
ない事にしておこう!!



■ あ、はれの大きなキウならば、どうして避けて通る事が許されない行為、パイリ、大きいおっぱいが大好きであるのなら、当然パイリだって大好きだろうし、俺も当然の様にそうであると思えておたのですが…例えば巨乳系のエロ漫画をおかずにセルフ発電をする場合、どうにも件のパイリにゴッドモーションを迎えるという事が殆ど無い事に気付いてしまった……俺、実はそこまでパイリが好きじゃな

かたのかな…
只巨乳好きとして当然の様にパイリも大好きなんだと思ひ込もうとしていただけだたのかな… なんだな
それは無い。
断言しよう

オラオラアツ!!
全部飲み込めっ!!

シ
!!



■ ガラス面等に
押し付けられまじっ
と変形したおはれは
ガラス面側から見る構図
が大好きなんだぜ

いざ描いてみると
何っかつの……
難し過ぎだ。

■昔から好きではあったのだが、あまりにも数が少なく、またそれをどう呼称したら良いのかもわからず悶々としていた所、ここ最近そこそこ見かける様になりさらには名称まで確立していた。ふん、壁尻。まあ要は壁にはあって動けない女の子のお尻にアしやコレやとしちゃう的なものである。壁尻という名称が指す通り、本来ならばメインとなるのは壁を隔てた尻側なのだが、どうにも俺

あんツ
だ、あツ...

な...ンツ

は尻側よりも前面側にその興味の殆どを注いでいる様なのだ。まあこいつはおかしいのか...と若干呆れられる方もいるだろう。まあそこは否定できないのだが、実は本質はそこではない。見えていない壁の向う側で行われている事を文字通り体感する事しかできない恐怖と絶望をその表情から読み取る事によって何とも言えない興奮と高揚を覚えるのは俺だけではないはずなのだ。.....多分。



駄目っ

腹内に射精
しちゃ...だっ...

こやだめ

11のままだ腹内射精

■「おねこちゃん」というエロコリがある、簡単に言ってしまうと年齢は年齢
もいらない少年をおねこちゃんと呼ぶ、ちまうといふものだ。少年とおねこちゃん
という取り合わせは俺も大好きなのだが愛攻の立場が逆の方が依然興奮する！
ってどうか、様々なエロコリ嗜好の中を俺的には、エロコリに価値しているのではないだろうか。
が、この「ガキに犯される」というエロコリは、まだ「おねこちゃん」の
1/10に達しない扱いで、甲斐なげな叫びも無いのが現
状だ。「おねこちゃん」とか「逆おねこちゃん」とかあるには
あるが、「おねこちゃん」あるいは「おねこちゃん」など認める言
にはないのだ!! 誰かたの返よ...

おや
おや
おや

■ちょっと前に出した本で妊婦は大好きだけど、それは何だかいいけない事かも…
みたいな事をいもいもと語った。妊婦とはいや妊婦さんとは神聖で崇高で云々
とかのたまておたと記憶しているのだが、ここ最近ではそんな想いもどこへやら。
妊婦が好きなのはただのまやかして、要は「大きく膨れ上がった女性のおなか」が好
きだけなのではなからうかという事にうすら気付いてしまったのだ。単に飯を喰い
過ぎただけでも、満々と腹が膨らむ程に腹内に「ゲム」を注ぎ込まれる
二次元ドリーム的なミルエーションでも、何とも食かたのである。

■まあ、それでも「強姦」中出し「望まぬ妊娠」
というコトボからの妊婦ミルエーションがやはり一番
興奮するんだけどね。とんだ人だな…







奥付

暴走魔将軍

先行
著
印刷

NNZ団
グレート魔神
コンビニコピー！

2014年 12月 30日 コミックマーケット87